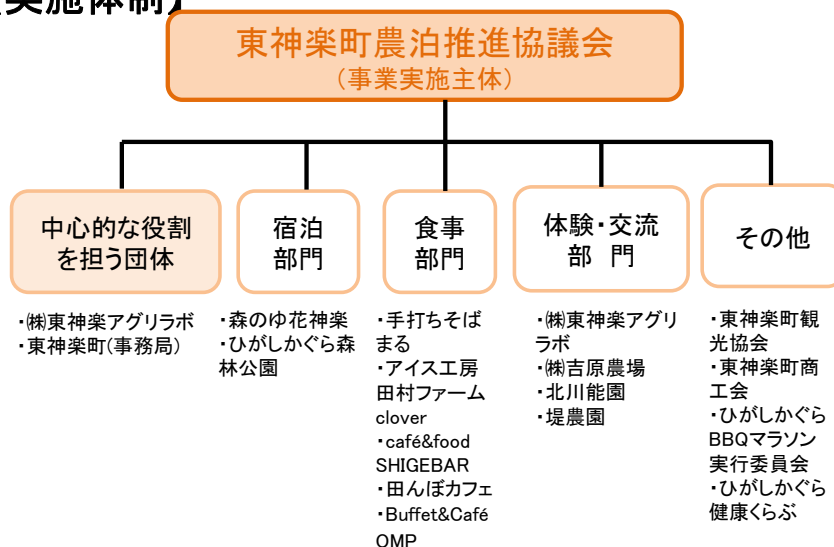


- 農泊事業も含めた観光事業が構築されていないことをメリットとして捉え、東神楽流の協議会を中心とした観光モデルを構築する。
- 空港がある立地特性を活かした、すぐに行ける、すぐに遊べる、ずっといられる、買って帰れるという通過型＋滞在型の農業を中心とした北海道を堪能する観光地を目指す。

北海道東神楽町



【実施体制】



【特徴的な取組】

- ①通過型／滞在型両面において空港利用客を積極的に取込むため、空港のある町、東神楽を活かした観光モデルを構築する。
- ②宿泊施設が不足する中、空家の増加や廃校利用という課題があるため、それらを活用し宿泊施設増加へ向けた検討を進める。
- ③農協出荷が主の地域であり、空港利用者や観光客への農産物の販売や体験、食の提供がほとんどされていないため、体験プログラムの開発や、飲食店との食コンテンツの開発を進め、地域活性や農家の経営的成長に資する新しい収益・ビジネスモデルを構築する。
- ④多様な来訪者の利便性を考え、当地域一体としてプロモーションや営業推進する一元的な体制を整備する。



＜専門家を招きフィールドワーク＞



＜ワークショップ＞

【取組内容】

- ①空港のある町、東神楽らしさを活かした観光モデルの構築
 - ・専門家を招聘し東神楽流の農泊事業のコンセプト設計、ビジネスモデルを構築
- ②宿泊施設の不足と空き家・廃校利用の検討
 - ・廃校や空き家を活用し、地域全体の宿泊施設増加方策の検討
- ③地域資源と立地特性を活用した体験プログラムの開発
 - ・専門家とプログラムを開発し、今後、モニターツアーを予定
- ④豊富な農産物を背景にした食コンテンツ・お土産の充実
 - ・町が最高品質と公認したブランド「東神楽の種と実セレクト」と連携し、農と食の結びつきを強くして、地域一体となったプロモーションを実現できる体制を構築
- ⑤包括したプロモーション、マーケティングの一元化運営の構築
 - ・各事業者個別の情報発信・集客とは別に、地域一体としてプロモーションや営業推進を行う仕組みを構築

インバウンド対応状況（青：対応）

Wi-Fi	洋式トイレ	キャッシュレス	外国語HP	外国語案内表示	外国語ネット予約

【採 択 年 度】
令和2年度

【事業実施期間】
令和2～3年度



旭川空港



森のゆ 花神楽